街かど

街かどでは、みなさんの作品(写真、短歌、俳句、随筆)やさまざまな意見を募集しています。また、町のでき事をお知らせください。
原則として必ず取りあげます。
黒埼町役場　企画調整課　☎七―三一〇一

投稿

「泣きべそ」

阿部浄子

転校生の静子は内気で、転校してまもなくの三年生の三学期、唱歌の試験に、一人ずつ前に出て、先生の脇で歌う時、歌えなくて下をむいたまま泣き出してしまった。それほどおとなしい子なのに、色白で目の大きな顔立ちは二十名のクラスの中でいつもみんなの目を引き、目だっていたらしい。

ある日、いつものとおり授業の十分休み中、隣の人に話かけるでもなく、ポチンと座っている静子に、腕白の照男が寄って来て「しずこいいか」と言った。

「……」

「すきか　」

「……」

そのうちにうるさくなった、静子はだまって首をコクンと下げたとたんに教室中響く声で「わーしずこ、広が好きなんだって！」広という子は、目がつり上ってみるからにこわい顔をしている上に、いつも鼻みずをたらしているため、クラスのきらわれ者である。静子にとってもいやーな感じの男の子だ。大きな笑い声やら、はやしたてる声に耐えきれず、静子はとうとう机につっぷして泣きじゃくってしまった。

そんなことのあって間もなく、運動場の隅っこで友だちとお手玉していた静子の前に、六年生らしい腕白で大きな男の子五、六人にむりやり手をひっぱられた広がほうり出されてきた。そのとたん、「しずこと広！」と、運動場全体がこわれるかと思うほどのはやし声がおこったのだ。翌日静子は頭がいたいと言って学校を休んだ。翌日も翌々日も休みたいと言い出したので、母が学校であったことを知り、先生に相談した。その結果、悪さをした男の子はしかられ学校の朝礼で校長先生から全校児童に、弱い者いじめをする子は、いけない子だと、とくとくと注意された。おかげでこの時から、静子は泣きべそのレッテルがはられたのだ。

だけど、いつの間にか静子はそんなできごとのあったのも忘れ、元気で学校へ通うようになった。広もどんな理由があったかは、わからないが六年生の終りごろ、北海道の小学校へ転校していった。

今、二人の子持ちとなった母静子、つまり私は「広」という名前の主人公の小説を手にして、なつかしく、小学生のころの自分の想い出にひたり、もう一度、照男や広に逢ってみたいなー。なんて思っているところです。

黒埼を讃える歌

中村周一（善久）

残雪光るいやひこを
遥かにのぞむわが町は
名産白雪米の生みの里
老いも若きも
心ほのぼの豊かなり

豊かに流れる中の口
河畔は至るところ埼となり
文化を運び、街つくる
老いも若きも
心ほのぼの豊かなり

黒埼の町、わが町は
米と文化の育つ町
史跡は語り
老いも若きも
胸ふくらみて豊かなり

高速道路も新幹線も
ともにわが町起点なり
躍動し躍進する町
希望の夢のもてる町
心ほのぼの豊かなり

注、崎は海のみさきですが、埼は川のみさきという意味です

三月の俳句

大いなる朝の日昇る雪の野原
日溜まりの庭木に群がる寒雀
寒行のあまたの僧のふみし岩
朝日に映え木々の霧氷や神秘なり

大野　佐藤キン

ほつれ髪直してやりぬ古雛
わが顔写して見るや雛鏡
鳩時計ぽっぽっ鳴らし雛の部屋

寺地　岩見正子

善意の窓

渡辺二郎さん（木場新田）は、㈳関蔵さんの香典返しとして、交通遺児救済の一助にと、六万円を役場に寄附下さいました。

編集室だより

▼昨年の六月十五日号から始めました「街かど」も、最近ようやくみなさんからの投稿や作品が届くようになりました。今後も、どしどしお送りください。お待ちしています。

▼一月一日号に「声」という欄を設けましたが、広報紙上で、何か意見を発表したい人がいましたら、この「声」が準備されていますので、こちらへも連絡ください。